

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2626 号

Clinicopathological characteristics of gastric adenocarcinoma with enteroblastic differentiation and gastric adenocarcinoma with enteroblastic marker expression

胎児消化管類似癌と胎児消化管マーカー発現を伴う胃腺癌の臨床病理学および分子病理学的特徴

阿部 大樹 (あべ だいき)

博士 (医学)

論文内容の要旨

胎児消化管上皮類似胃癌 (GAED) は、脈管侵襲やリンパ節転移・肝転移を高率できたす悪性度の高い特殊型胃癌とされている。組織学的にグリコーゲンに富む淡明な細胞質と胎児腸管類似構造を有し、胎児消化管マーカー (EM) である α -fetoprotein (AFP)、glypican-3 (GPC3)、spalt-like transcription factor 4 (SALL4) の少なくとも 1 つが発現していることが定義とされるが、淡明な細胞質を有さないにもかかわらず胎児消化管マーカーが発現している胃癌 (GA with EM) にもしばしば遭遇する。今回我々は EM 陽性胃癌が淡明な細胞質の有無に関わらず包括して分類できるか検討した。2008 年～2020 年の間に手術が施行された進行胃癌 688 例を対象とし、組織マイクロアレイを用いて EM (AFP、GPC3、SALL4) の免疫組織化学的 (IHC) 発現と淡明な細胞質の有無により GAED94 例 (13.7%)、GA with EM58 例 (8.4%)、通常型胃癌 (CGA) 536 例に分類した。EM 発現と臨床病理学的要因の関連および予後解析では GAED と GA with EM とともに、CGA と比較して、脈管侵襲、リンパ節転移、肝転移の頻度が高かった。しかし、静脈侵襲や肝転移は GAED でより頻繁である一方で、リンパ管侵襲は GA with EM でより多かった。5 年全生存率は、GAED が 46.6%、GA with EM が 47.9%、CGA が 58.2% であり、CGA の方が 5 年全生存率が高かった。GAED と GA with EM の全生存率はほぼ同じ傾向で、EM 陽性胃癌 (GAED と GA with EM) は CGA より全生存率で有意に予後不良であった ($P=0.018$)。また、腫瘍径は CGA よりも EM 陽性群で小さい傾向があったが、静脈侵襲率および肝転移率は EM 陽性群で有意に高く、EM 発現が高悪性度につながることを示された。これらの所見から GAED と GA with EM は病理学的には若干異なるが、臨床的には高悪性度の一群として分類可能であった。